

生活に地産地消を！ ～都市農業をリードする八王子を目指して～

Bring local production and local consumption into our lives! ～Toward top runner Hachioji of urban agriculture～

前田ゼミ 農業グループ
佐久間妙子 住吉弘、三上大輝、村井香菜子
指導教員 前田幸男
創価大学 法学部 法律学科 前田ゼミナール

キーワード：地産地消, 都市農業, 食育

1. 提案の背景

近年、“地産地消”の必要性が高まっている。八王子市による第49回平成29年度市政世論調査（「八王子ビジョン2022」の施策指標に関する調査）によると、市内の農産物を《意識して購入》する人の割合は6割近くに上っている。

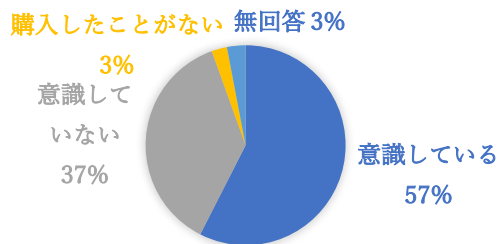


図1 市内の農産物の購入

こうした市民の声に応え、市全体として地産地消を推進することによって地域は様々な恩恵を受けることになる。例えば、農産物の生産が身近なものになることで、消費者は安心感と安価で新鮮な農産物の提供を受けることが可能になり、同時に農産物の消費と食農に対する意識が高まる。一方、生産者は消費者のニーズに即した生産が可能になるとともに流通費等のコストカットによる収益率の増加と、それに伴う所得増が見込まれる。

特に、生産者と消費者の距離が近く、消費者を多く抱える都市での地産地消を推進する上で都市農業の重要性が高まっている。中でも、八王子市は都内にありながら、広大な農地面積を有しており、都

市農業としての役割を最大限に果たすことが可能である。

こうした、市内の農産物の消費者・生産者の両当事者にとってメリットがあり、都市農業としての強みを大きく発揮することのできる八王子市での地産地消の施策について提案したい。

2. 八王子市における地産地消の現状

先に述べた世論調査の結果からも分かるように、市民の地産地消への意識は年々高まりを見せており、その要因の1つとして、八王子市内における地産地消に向けた様々な取り組みがある。JA八王子農業祭や学校給食の現場での“八王子産米を食べる日”の開催、市内各所に設けられた農産物直売所などが挙げられる。その中でも最も賑わいを見せており、道の駅としては都内初、かつ都内唯一（2019年時点）である「道の駅八王子滝山」では『交流と賑わいを紡ぐ都市型道の駅』を基本コンセプトとして、道の駅そのものを目的化した新しい手法での運営が行われている。施設の中でも中核的な存在である農産物直売所「ファーム滝山」では、畜産物や加工品を含む多くの新鮮な八王子農産物が販売されており、地産地消に向けた一大拠点として整備されている。

「第3次八王子市農業振興計画」によると、農産物の販売方法は多様化しており、個人・JA直売は減少している一方で、道の駅等の共同直売所への出荷が増加している。農業従事者の減少に伴っ

て、基本的にはこうした傾向が持続すると考えられるため、当面の間は大型かつ共同の直売所での農産物販売が考慮された出荷体制が取られていく可能性がある。現在の八王子市内の状況を考えるに「道の駅八王子滝山」への集約的な出荷が進められると考えられるが、そこで八王子農産物の魅力が伝わることにより、他の直売所での販売数も一定程度維持されるのではないだろうか。



「滝山ファーム」
(道の駅八王子滝山ホームページ)

3. 提案

以上の現状から、私達は八王子市の地産地消活性化の第一歩として道の駅八王子滝山での地場農産物の魅力を発見するきっかけの創出と市民の継続的な消費が必要だと考え、2点の施策を提案する。

①直売所で料理教室「はちベジ Cook」の開催

直売所で八王子野菜を活かした料理教室「はちベジ Cook」を開催する。「はちベジ Cook」は直売所の施設内若しくは周辺で開催し、複数回参加して修了するコースを設ける。参加者は料理教室に参加して八王子農産物の関心を高め、立ち寄った直売所で実際に購入し、安さや新鮮さなどの魅力を体験する。

②「はっちくんポイント制度」の導入

八王子農産物を購入した消費者に対してポイントが付与され、1ポイント=1円として次回買い物時に利用できる。対象商品には八王子市食育キャラクター“はっちくん”のシールを貼り、消費者にとってわかりやすい表示をする。「はっちくんポイント制度」導入によって地元農産物への高いニーズの主要因である「安さ」をより魅力的にし、直売所利用者を維持する。



“はっちくん”

(八王子市ホームページ)

「はちベジ Cook」開講により、市民が料理を習うという機会をきっかけに、直売所を定期的に訪れるようになる。また、「はっちくんポイント制度」の定期的な利用者が得をする仕組みと「はちベジ Cook」の複数回受講が必要なコース制を組み合わせ、直売所の利用者を増加させ、維持する。

4. 今後の八王子農業の展望

以上2点の施策をきっかけに、市民の地場農産物の消費と農家の八王子市での出荷・販売が増加し、八王子市内での地産地消が活発になる。さらに今後、施策を応用し、農家による料理教室を市民の身近で開催する。また、市内各地にある直売所でも「はっちくんポイント」を共通ポイントとして利用できるようにし、道の駅八王子滝山での利用者が自宅から近い直売所を訪れるようにする。これらの展開によって地産地消が市民の生活に根付くことが期待される。

都市農業には農業生産の他に、コミュニティーの活性化や食育、防災などの多面的な機能があり、これからの地域社会においてさらに推進されている。この様な社会の動きの中で、八王子市は農耕に適した気候や土壌を活かし、大消費地である東京の地産地消をリードする姿が実現されるだろう。

5. まとめ

現在、地産地消への重要性と消費者の関心が高まっており、八王子市でも様々な取り組みが行われている。私達の提案する「はちベジ Cook」、「はっちくんポイント制度」は市民を直売所へ行く機会を創出し、魅力を体感して継続的な利用を促す。そして、市内各地の直売所でこの施策を拡大し、八王子市の地産地消を加速させる。地産地消の推進により、消費者・生産者にメリットがあるだけでなく、八王子市内の活性化にも繋がる。そして、未来の農業として注目される都市農業のモデルとして、他地域での地産地消を後押ししていきたい。